楽府群玉（心井盦抄本）文字整理方針

心井盦抄本『類聚名賢楽府群玉』の再現テキストを作成した。再現テキストとは，原本のレイアウト情報を備えた翻字テキストのことである。匡郭等の図形や元の縮尺にはこだわらず，本文，校語，蔵書印などの文字情報を中心にして直感的にイメージしやすいように作ってある。将来，この本の影印本が出版されるときまでの代用をつとめることを目的にしている。

底本には中国国家図書館古籍館所蔵の原本（請求記号 XD3212）を用いた。心井盦抄本は羅振常（号は心井）が天一閣抄本を写したもので，隋樹森校訂本（上海古籍出版社，1982）の底本にもなっている。なお，隋本「前言」ではこの本が羅振常の兄の羅振玉によるものと誤解されている（5 頁）。

再現テキスト作成に当たり，次のような方針で文字を整理した。

（1～5　再現テキストすべてに共通）

1. 判読できなかった字は□，原本の墨丁は■，もともと書かれていた四角形は口を用いる。
2. 俗字は正字に改める。敦煌文献，戯曲・小説等の校勘作業では常に俗字処理の問題がつきまとい，代表的な考え方には，王重民『敦煌変文集』（人民文学出版社，1957）のように俗字の字形を残す方法と，黄征・張涌泉『敦煌変文校注』（中華書局，1997）のように正字に改める方法，そして鄭騫『校訂元刊雑劇三十種』（世界書局，1962）のように無理に植字・校勘せず記号（×）で代用する方法の 3 種類があるだろう。元代散曲テキストにおいても草かんむりと竹かんむりが混用されて「⺮」のような形で書かれるなど，俗字は多様で活字での表現が困難なため，正字に改める方法を採用した。字形だけではどの字か特定できない場合もあり，そのときは排印本等の資料を参考にしながら文意に応じて改めている。例外的に俗字を残した場合は，以下の 6，7 に記載してある。俗字の範疇については張涌泉『漢語俗字研究』増訂本（商務印書館，2010）を参考にした。
3. 字形がくずれて字をなしていないときは，俗字の場合と同様，排印本等の資料を参考にしながら文意に応じて改める。
4. 字形が明らかで字をなしているものは原則そのままにする。例えば明らかな誤字，音の近い当て字であっても変更していない。
5. 次に示す字形はカッコの左側を標準形とする。カッコ内は多くが日本で旧字体と認識されている字形だが，常用漢字とそれ以外（表外漢字）で一貫性を欠き，一つの字形に統一できないので採用しなかった。標準形の選択においては，コンピューターの文字コードと，再現テキスト作成に使用したフォントとを精査することで，文字体系全体のなかで字形の一貫性を確保した。

奥(奥)　并(幷)　並(竝並)　査(査)　処(処)　兌(兌)　骨(骨)　龜(龜)　衮(袞)
戸(戸)　黄(黄)　即(卽卽)　既(既既)　兼(兼)　教(敎)　晋(晉)　聚(聚)　絶(絕)
賴(賴)　另(另)　呂(呂)　免(免)　内(內)　普(普普)　青(靑)　弱(弱)　覃(覃)
衛(衞)　卧(臥)　虚(虛)　要(要)　益(益)　俞(兪)　羽(羽)　蚤(蚤)　者(者)
真(眞)　直(直)　衆(衆)　术(朮)　兹(茲)
辶(辶)　开(幵)　殳(殳)　礻(示)　发(发)　产(产)　林(林)　臣(臣)　咼(咼)
飠(飠)　昷(昷)　虽(虽)

（6～9　この再現テキストに固有の整理状況）

6. 次の文字は同義で音の近い通用関係にあり，この再現テキストでは統一せずそのままの字を残した。整理の範囲は本文など当初からあった部分とし，後人が付加した序跋・校語等は含めていない。

庵菴　盃杯　鬢髩　並并　彩綵　採采　喫吃　癡痴　船舡　葱蔥
堤隄　吊弔　疊疊　鬪鬥　妬妒　峩峨　翻飜　峯峰　歌哥　鼓皷
挂掛　怪恠　管筦　回迴　跡迹　牋箋　減減　堦階　逕徑　況況
闊濶　臘臈爛　泪涙　璃瓈　里裏　隣鄰　幙幕　撚捻　寧寗　煖暖
佩珮　拚拚　憑凭　淒凄　嬪娶　墻檣　遶繞　蕊蕋　箸箬　洒灑
笋筍　簑蓑　它他　塌榻　擡抬　嘆歎　條条　同仝　駝馳　翫玩
瓮甕　汙汚　誤悞　戲戯　絃弦　閑閒　街啣啣　羨羨　蕭肖　傚傚
蟹蟹　胷胸　修脩　綉繡　烟煙　胭臙　嵜岩巖　野埜　遊游　願愿
韻匀　咱喈　暫蹔　着著　庄莊　姿姿　蹤踪　摠總　觜嘴

7. 次の文字の多くは他の散曲テキストでは通用関係にある字が存在するが，この本では 1 種類の字だけ使われている。他の散曲テキストとの比較ができるよう，ここに列挙しておく。整理の範囲は 6 と同様，当初からあった部分に限定している。

捱　碍　鰲　瀟　柏　榜　鞭　遍　氷　飡　慙　草　茶　沉　撑　頼　翅　酬　雛　雛
窗　床　甕　鵡　匆　璁　驄　麁　退　嵯　答　稲　燈　第　蒂　雕　鼎　蔘　瀆　朶
趂　梔　馱　鵝　蕚　爾　概　幹　缸　皐　閣　箇　耕　鈎　館　歸　鶴　哏　鴻　後
歡　篁　魂　飢　雞　虀　覊　髻　剪　健　鑑　劫　節　潔　粳　淨　肯　欵　虧　愧
蠟　懶　梨　藜　奩　憐　涼　梁　粮　粼　凌　略　莽　猶　麼　梅　蘼　麪　滅　命
模　寞　拿　那　妳　你　旎　梟　穠　派　旆　毗　屏　瓶　婆　魄　撲　鋪　栖　棊
棄　寢　藥　秋　軀　驅　覷　畎　缺　裙　羣　冉　染　颱　腮　澁　煞　曬　甚　昇
勢　梳　疎　蔬　絟　槊　絲　蘇　泝　算　飧　鎖　壇　韜　桃　汀　茶　塗　迤　椀
幃　無　繫　謔　賢　簫　效　笑　欣　疊　壻　薫　雁　摩　豔　灩　釅　醫　旖　映
詠　餘　輿　欝　寃　緣　雲　葬　皂　折　浙　卮　鐘　筋
鴛鴦

8. 次の右側の文字は字形を変更して左側のように統一した。

個←个　回←回　迴←迴　諂←諂　掐←掐　陷←陷　啖←啖

9. 文字の修飾（色など）

黒色： この本の成立当初の字，後人の序跋の字

青色： 校語の字，羅振常序で修正・追加された字。羅振常序の青の部分がさらに修正されているときはまた黒色を用いた

二重取り消し線： 修正で塗りつぶされた字

赤色： 蔵書印

（改版履歴）

01　2015.3.23

02　2015.11.15

再現テキスト　修正箇所は，順に葉，表裏と行，修正前，修正後を表わす。

巻首2	a書眉	~~□□~~	~~花日~~
4	a1	鉛	鉛（ロの上にムを重ね書き）
21	a2	旆	旆
104	a6	晝	晝

文字整理方針

6に追加　採采　巖

6から削除　掂掂　堆堆　劫劫　幀幀

7に追加　第　鵝　缸　劫　虧　莽　模　裊　旆　染　茶　幃　笑　薫　鐘

03　2016.3.30

再現テキスト　修正箇所は，順に葉，表裏と行，修正前，修正後を表わす。

10	b10	上	山
34	a3	羨	羨
45	a1	疊	疊
48	b2	疊	疊
58	a4	傚	傚
59	b9	拘	拘
61	a1	羨	羨
89	a6	疊	疊
90	b9	姿	姿

文字整理方針

6に追加　吊弔　疊疊　箸箸　羨羨　傚傚　姿姿

7に追加　捱　碍　瀟　榜　茶　沉　撑　頼　翅　床　甕　鵜　匆　驄　麁　退　答
蒂　鼎　蓼　漬　梔　爾　鶴　哨　鴻　飢　剪　健　節　潔　粳　肯　愧
懶　梁　麼　寞　那　旋　穠　婆　撲　鋪　薬　軀　畎　裙　冉　勢　梳
蔬　絃　槊　蘇　沂　算　鎖　壇　塗　賢　疊　摩　祷　映　詠　縁　折
浙　筋

7から削除　卓